

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分  
 【発行日】平成 18 年 12 月 21 日 (2006.12.21)

【公開番号】特開 2005-153773 (P2005-153773A)  
 【公開日】平成 17 年 6 月 16 日 (2005.6.16)  
 【年通号数】公開・登録公報 2005-023  
 【出願番号】特願 2003-396968 (P2003-396968)  
 【国際特許分類】

**B 6 0 H 1/32 (2006.01)**

**F 2 5 B 43/00 (2006.01)**

【F I】

B 6 0 H 1/32 6 1 3 A

F 2 5 B 43/00 L

【手続補正書】  
 【提出日】平成 18 年 11 月 8 日 (2006.11.8)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

車両用空調装置の冷凍サイクルに装備され、液相冷媒を一時的に貯留するとともに冷媒中の水分や異物を除去するレシーバドライヤであって、

冷媒を貯留する中空の本体と、冷凍サイクルを流れる冷媒を前記本体内に流入させる流入口と、前記本体内の冷媒を冷凍サイクルに向けて流出させる流出口と、前記本体内の冷媒を外気中に放出する通路と、該通路を開閉する電磁弁と、を具備することを特徴とするレシーバドライヤ。

【請求項 2】

前記本体は一端部が開いた筒状のもので、該開口を封止する封止部材を有するとともに、該封止部材に前記流入口及び前記流出口を設けたことを特徴とする請求項 1 記載のレシーバドライヤ。

【請求項 3】

前記封止部材は外方に向けて突出するように形成された一对のパイプ状の突出部を有しており、各突出部の内部を前記流入口又は前記流出口としたことを特徴とする請求項 2 記載のレシーバドライヤ。

【請求項 4】

前記本体には、前記本体内に連通する弁室と、該弁室と外気とを連通する通路と、該通路と前記弁室との間に形成された弁座と、が設けられ、前記電磁弁は、前記弁座に接離して前記通路を開閉する弁体と、該弁体を開閉方向に移動させるプランジャと、を有することを特徴とする請求項 1 記載のレシーバドライヤ。

【請求項 5】

前記電磁弁は、前記プランジャを閉弁方向に付勢するスプリングと、電磁コイルと、該電磁コイルが発生させる磁力により前記プランジャを前記スプリングの付勢力に抗して開弁方向に移動させる吸引子と、を有することを特徴とする請求項 4 記載のレシーバドライヤ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

本発明のレシーバドライヤは、車両用空調装置の冷凍サイクルに装備され、液相冷媒を一時的に貯留するとともに冷媒中の水分や異物を除去するレシーバドライヤであって、

冷媒を貯留する中空の本体と、冷凍サイクルを流れる冷媒を前記本体内に流入させる流入口と、前記本体内の冷媒を冷凍サイクルに向けて流出させる流出口と、前記本体内の冷媒を外気中に放出する通路と、該通路を開閉する電磁弁と、を具備することを特徴とする

。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

そして、前記本体は一端部が開口した筒状のもので、該開口を封止する封止部材を有するとともに、該封止部材に前記流入口及び前記流出口を設けたことを特徴とするものである。

また、前記封止部材は外方に向けて突出するように形成された一对のパイプ状の突出部を有しており、各突出部の内部を前記流出口としたことを特徴とするものである。

さらに、前記本体には、前記本体内に連通する弁室と、該弁室と外気とを連通する通路と、該通路と前記弁室との間に形成された弁座と、が設けられ、前記電磁弁は、前記弁座に接離して前記通路を開閉する弁体と、該弁体を開閉方向に移動させるプランジャと、を有することを特徴とする。

そして、前記電磁弁は、前記プランジャを開弁方向に付勢するスプリングと、電磁コイルと、該電磁コイルが発生させる磁力により前記プランジャを前記スプリングの付勢力に抗して開弁方向に移動させる吸引子と、を有することを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

図 1 は本発明のレシーバドライヤの一実施例を示す断面図である。

全体を符号 1 で示すレシーバドライヤは、一端部が開口する有底の中空の本体 10 を有する。この本体 10 は、例えばアルミ合金の素材を冷間鍛造加工により細長い有底円筒形に成形されるものである。アルミ合金は加工性が良いので、例えば底部より外側に延長して設けられるボス部 20 も一体に形成することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

封止部材 40 は、円盤形状の封止部 41 と、封止部 41 から突出する一体に形成された角柱状の取付部 42 とを有し、取付部 42 には冷媒の流入路 44 と冷媒の流出路 46 がそれぞれ L 字形状に設けられ、これらの端部（突出部）44a、46a は封止部材 40 から外方に向けて突出するパイプ状に形成されている。